

POINT 3

薩英戦争

— 戦いによって知った欧米列強との力の差 —

1858年の斉彬の死後、集成館事業は大幅に縮小されました。

1862年の「生麦事件」をきっかけに、薩摩藩とイギリス艦隊との間で戦争(「薩英戦争」)が起きました。薩摩藩は、この戦争で欧米列強との圧倒的な力の差を感じ、斉彬の唱えた近代化の重要性に改めて気づくこととなります。



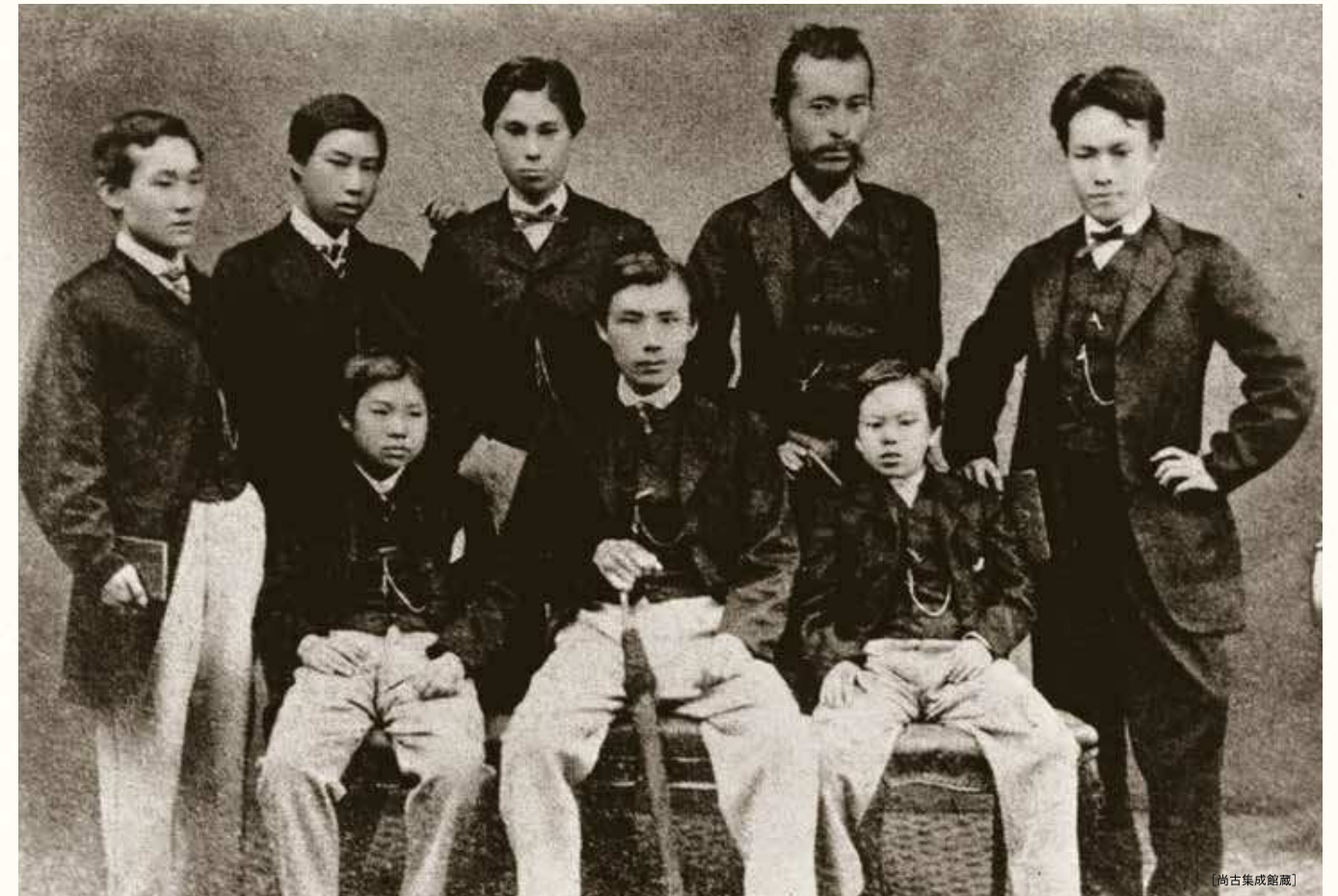
『薩英戦争絵巻』

最新式の大砲の威力により 集成館や城下も炎上

薩摩藩は、斉彬が造らせた砲台・大砲で攻撃し、イギリス艦隊に大きな損害を与えました。しかし、イギリス艦隊は、最新式のアームストロング砲で応戦したため、薩摩側の砲台は次々と破壊され、集成館や城下も被害にあいました。

新波止砲台跡

鶴丸城の正面を守る主力砲台で、薩英戦争時には、150ポンド砲をはじめ11門の大砲が備えられていました。



『薩摩藩英国留学生』

後列左から
田中盛明、町田実積、鯨島尚信、松木弘安(寺島宗則)、吉田清成
前列左から
町田清次郎、町田久成、磯永彦輔(長沢鼎)

薩英戦争からわずか1年半後 留学のため渡欧した 若き薩摩のサムライたち

1865年、薩摩藩の若者が西洋の技術を学ぶためイギリスに派遣されます。当時、海外への渡航は禁止されていたので、串木野を出航した後、密かにイギリス商人グラバーが用意した船に乗り移り、ヨーロッパに向けて旅立ちました。

留学生達は、帰国後、様々な分野で活躍。この時、同行した五代友厚らは、紡績機械の購入や技師派遣などの交渉を行っています。



トーマス・グラバー

留学生渡欧の地・いちき串木野市 羽島



薩摩藩英国留学生渡欧の地

薩摩藩英国留学生記念館

薩摩藩英国留学生の留学の旅と帰国後の人生について紹介し、彼らの功績を後世に伝えるために、2014年7月に開館。
■いちき串木野市羽島 4930番地
■TEL 0996-35-1865



Column
02

グラバーとの交流を通じて 英国への留学生派遣を実現

五代友厚は、長崎に留学し、航海、砲術、測量を学びました。イギリスへの留学生派遣を藩へ建言し、自ら留学生を率いてヨーロッパ視察を行い、蒸気船、紡績機械の購入にあたります。明治維新後は、大阪証券取引所の前身である大阪株式取引所や大阪商工会議所を設立し、大阪商工会議所の初代会頭に就任するなど経済界で活躍しました。



〔国立国会図書館蔵〕

薩摩藩士 五代友厚

Tomooki Gendai

1835年～1885年
鹿児島出身で、商都大阪の発展に貢献した薩摩藩士。

POINT 4

集成館事業の
再興

島津斉彬の亡き後、藩主忠義の後見人となった島津久光は、兄斉彬が行った集成館事業の再興に取り組みます。

薩摩藩は、イギリスに留学生を派遣して西洋の進んだ技術や知識を積極的に吸収するとともに、西洋から優れた機械を直接購入して近代化を加速させていくことになります。

集成館では、これまでの事業に加え、洋式機械による紡績や艦船・蒸気機関の修理なども行われるようになりました。これらの事業は、「強く豊かな国」を夢見た斉彬の近代化への想いを受け継いだ多くの人々の知恵と努力によって実現されていきました。

現在の旧集成館機械工場は、薩英戦争後に、斉彬の意思を継いだ藩主忠義が1865年に建築したものであり、現存する日本最古の西洋式機械工場として、私たちに往時の姿を伝えています。



工場の動力には蒸気機関が用いられた。形削盤など場内の機械に動力を伝えていた大きな歯車が館中央に展示されている。

CHECK POINT

薩摩の職人が作り上げた
洋風の石造建造物

- 1 蒸気機関の動力を各機械に伝えるためのシャフト(屋根裏)
- 2 神社建築に見られる亀腹石
- 3 レンガに代えて、地元の石材を使用

Column
03薩摩藩の中核で活躍した
明治維新の功労者

小松帯刀は、肝付兼善の三男で、大久保利通など有能な人材を重用し、島津久光の藩政改革などを助けて藩の中心人物となりました。28歳で薩摩藩家老となり、1866年京都の小松邸で坂本龍馬立ち会いのもと薩長同盟を成立させます。

薩英戦争を経験し、薩摩藩英国留学生の派遣や、機械工場の建設にも主導的な役割を果たしました。



薩摩藩家老
小松 帯刀

Obiwa Komatsu

1835年～1870年

鹿児島出身で、明治維新を牽引

した薩摩藩家老。

【尚古集成館蔵】

現存する日本最古の
西洋式機械工場

SINCE 1865

旧集成館機械工場

現・尚古集成館 本館

POINT 5

全国へ伝播した
薩摩の技術

明治時代になって、日本の基幹産業となる近代紡績業。斉彬は、洋式帆船建造のための帆布を製作するために紡績事業に力を入れました。

次の藩主忠義は、近代紡績技術を直接導入するため、五代友厚らをイギリスに派遣し技師の招聘や紡績機械の購入にあたらせました。

1867年、日本初の洋式紡績工場である鹿児島紡績所が完成。イギリス人技師が滞在するための宿舎(旧鹿児島紡績所技師館)も完成し、技師たちは職工の技術指導にあたりました。

技師たちが訪れる前から、藩独自の技術で大幅織機を製作する技術をもっていた薩摩の人々は、わずか1年間で蒸気機関を動力とする洋式紡績の技術を習得しました。明治になり、その技術と知識はやがて、富岡製糸場(平成26年世界遺産登録)など、全国の紡績工場へ広まっていきました。

斉彬の「富国強兵」・「殖産興業」のコンセプトと、その下に育まれた製鉄や紡績などの技術は、日本の近代化に大きな役割を果たしていきました。



[長崎大学付属図書館蔵]



[長崎大学蔵]



[尚古集成館蔵]

【写真：上】稼働中の鹿児島紡績所(明治7年頃)
【写真：下】1867(慶応3)年に建てられた技師館

薩摩藩は、鹿児島紡績所建設などのためイギリス人7名を雇っていた。

CHECK POINT

日本で最も初期の西洋建築
和洋折衷の建築様式が特徴

- 1 日本の寸法で設計された柱
- 2 当時イギリスで流行したコロニアル様式のベランダ
- 3 通常より低い位置に取り付けられたドアノブ

Column
04斉彬の夢を受け継ぎ
全国への技術伝播に貢献

石河確太郎は、江戸・長崎で蘭学を学び、斉彬が進めた反射炉建設を担当。斉彬亡き後、紡績事業の重要性を藩主忠義らに伝え、イギリスから紡績機械を購入するよう訴えます。明治維新後は、全国の官営紡績工場の設置にも携わり、1872年に完成した富岡製糸場では、糸繰り機械を300台設置するなど、日本の紡績技術の発展に貢献しました。



蘭学者
石河 確太郎

Kobataro Ishikawa
1826年～1895年
大和国(奈良県)出身で、集成館
事業に携わった蘭学者。

[尚古集成館蔵]

近代紡績の技術を伝えた
イギリス人技師たちの居館

SINCE 1867

旧鹿児島紡績所技師館

異人館

ACCESS MAP



名勝 仙巖園

旧集成館機械工場・旧集成館（反射炉跡 ※仙巖園内）

- 所在地 鹿児島市吉野町 9698-1・同市吉野町 9700-1
- アクセス JR 鹿児島中央駅からカゴシマシティビューで約 30 分、「仙巖園前」下車すぐ
- 問合せ先 尚古集成館 099-247-1511 仙巖園 099-247-1551

旧鹿児島紡績所技師館（異人館）

- 所在地 鹿児島市吉野町 9685-15
- アクセス JR 鹿児島中央駅からカゴシマシティビューで約 30 分、「仙巖園前」下車、徒歩約 2 分
- 問合せ先 異人館 099-247-3401

寺山炭窯跡

- 所在地 鹿児島市吉野町 10710-68
- アクセス JR 鹿児島中央駅から南国交通バス（宮之浦団地線）で約 35 分、「三州原学園前」下車、徒歩約 20 分
- 問合せ先 鹿児島市教育委員会文化財課 099-227-1940

関吉の疎水溝

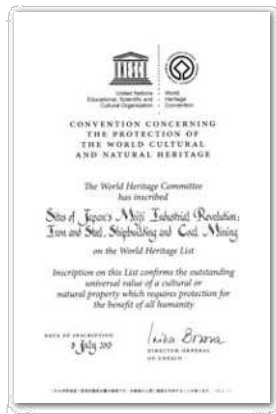
- 所在地 鹿児島市下田町 1263 先
- アクセス JR 鹿児島中央駅から南国交通バス（伊敷団地線、緑ヶ丘団地線、本城線）で約 30 分、「関吉の疎水溝入口」下車、徒歩約 8 分
- 問合せ先 鹿児島市教育委員会文化財課 099-227-1940

ユネスコ 世界遺産登録までの歩み

『明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業』は、2015年7月8日に世界文化遺産に登録されました。

本県においては「屋久島」が、1993年に日本初の世界自然遺産として登録され、2021年には「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が同じく世界自然遺産として登録されています。

世界遺産とは、国境を越えて人類が共有し、次の世代に受け継いでいくべき遺産のことです。



世界遺産認定書

- 2005年 7月 鹿児島県が「九州近代化産業遺産シンポジウム」を開催（「かごしま宣言」を採択）
- 2006年 6月 九州地方知事会が「九州近代化産業遺産の保存・活用」を政策連合項目として採択
- 2008年 9月 文化庁が世界遺産暫定一覧表への追加記載を決定
- 2008年 10月 関係自治体が世界遺産登録を推進するための協議会を設置（会長 鹿児島県知事）
- 2009年 1月 ユネスコが世界遺産暫定一覧表に追加記載
- 2012年 5月 稼働資産の世界遺産登録推薦に係る閣議決定
- 2013年 4月 協議会が国に推薦書原案を提出
- 2014年 1月 国がユネスコに推薦書を提出
- 2015年 5月 イコモス（国際記念物遺跡会議）が世界遺産登録を勧告
- 2015年 7月 世界遺産委員会が世界文化遺産登録を決定

「産業国家」日本の原点・鹿児島 世界文化遺産

明治日本の産業革命遺産

解説つき動画配信中! YouTube

こちらからご覧ください



〈本編〉

〈短編〉

かごしま産業遺産の道



「かごしま産業遺産をたくさんぼ」動画配信中!



公式 WEB サイト

【発行・企画】

鹿児島県観光・文化スポーツ部世界文化遺産室

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10 番 1 号 TEL.099-286-2364 FAX.099-286-5590

【制作】株式会社トライ社 【印刷】2024年3月

VRスマートフォンアプリで 当時の集成館事業を見てみよう!

無料アプリ「STREET MUSEUM」をダウンロードしていただき「薩摩の近代化(集成館第一期、第二期)」から御覧ください。(iOS、Android対応)

明治日本の産業革命遺産 ガイドアプリパスポート

「明治日本の産業革命遺産」ガイドアプリを公開しています。産業革命遺産のガイドや各エリアの情報などを手軽に楽しみながらご覧いただけます。

iOS版



Android版

